

(5) 感染を原因とするがん啓発のための映像コンテンツの研究制作

医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻修士課程	○神田明日香
医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻	横田ヒロミツ
医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻	山形千星子
医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻	浦上 淳

【目的】

目に見えないウイルスや細菌が引き起こす「感染を起因とするがん」があり、この種のがんは予防が可能であることが日本ではあまり知られていない。その結果として、予防・治療を受けるか否かの選択の機会につながらないのが現状である。

本研究の目的は、感染を原因とするがんとその予防法の存在について訴求力の高いメディカルイラストレーション動画によって伝え、関心と意識を高めってもらうことで予防・治療を自身の意思によって決断する機会を提供することである。更にアンケート調査では、動画を視聴する前後で“予防”に対する意識がどの程度変化するかを明らかにする。

【方法】

本研究では、がん化を引き起こす代表的な病原微生物である“HPV（ヒトパピローマウイルス）・HBV（B型肝炎ウイルス）・ヘリコバクターピロリ菌”の計3種に着目し、それぞれの臓器への感染から発がんまでのメカニズムを説明した5分程度の3DCGアニメーションを制作した。

対象者は医学医療（特に感染症や腫瘍）の専門知

識を持たない18～20歳の男女とし、本学の医療福祉学部 臨床心理学科2022年度1年生のうち、本研究に協力の意思を示した学生に匿名でアンケートを行い動画視聴前後で“がん予防”に対する意識がどの程度変化するかを調査した。

【結果】

動画視聴前後で大きく変化のあった項目は「ワクチン接種などがん予防を行おうと思うか」であり、視聴後でポジティブな回答の増加が見られた。動画の速さに関する記述欄には「文字を読んでいる間に次に行ってしまった」「目が滑る」等の回答が得られた。

【考察】

回答者の半数以上が「感染を起因とするがん」について知らないと答えており、動画視聴によって予防の意識を高めることに繋がれたと考える。また動画の速さには改善の余地があり、この結果を今後の制作に活かすことで、より伝わりやすいヘルスケア情報の伝達メソッドの向上に寄与できるのではないかと考える。